

2022 年度 JPI 東北支部包装研究講演会

主催:公益社団法人日本包装技術協会 東北支部・日本包装管理士会 東北支部

公益社団法人日本包装技術協会 東北支部並びに日本包装管理士会 東北支部では、包装技術の啓発を目的とし、包装の技術、材料、最新の話題等々からテーマを選定した講演会を開催しております。この度、下記要領にて包装研究講演会を開催させていただくことになりました。是非この機会に皆様お誘い合せの上、参加下さいますようご案内申し上げます。

■プログラム

時間	講演内容
16:30 17:30	『棒積みパレット積載とストレッチフィルムパレット梱包による箱材質の削減と保管時トラブルの防止について』 講演者 キューピー株式会社 技術ソリューション研究所 シニアコーポレートサイエンティスト 高山 崇 氏 物流環境は年々進化しており、例えばパレット積みされた製品は従来手作業で紐掛けしていたものが、自動機によるストレッチフィルム巻きへと移行している。また、保管方法に関しても、従来の平置きから自動ラック倉庫へと替わりつつある。東日本大震災では、自動ラック倉庫内での荷崩れが多発し、復旧に長時間の危険作業が伴うことが問題となり、これが契機となりストレッチフィルムによる確実な荷の安定化が加速した。ストレッチフィルムによる荷の安定化により、より段ボール箱の強度劣化を防げる棒積みへの変更が可能と考えられる。また、ストレッチフィルムはポリエチレン製のため水蒸気透過性が低く、一時の高湿度環境から避けられることや、湿度の繰り返し変化による段ボール箱の強度劣化を防げると考えられる。このように物流環境の進化により、より段ボール箱の劣化要因が緩和され、箱材質の低減が可能であると考えられる。 講演では、箱材質の低減がなぜ可能なのか、理論的な背景と実測による検証について発表する。
17:40 18:40	『1試料による包装貨物落下試験機を用いた簡易衝撃強さ試験方法』 講演者 神栄テクノロジー株式会社 システム事業推進部 部長 川口 和晃 氏 適正包装設計のためには、製品自体の衝撃強さ(許容加速度)が必須であることは周知である。そこで許容加速度を数値化するための試験方法として JISZ0119 が規定されているが、高額な衝撃試験機が必要となること、結果を得るまで複数の試験サンプルが要求されていることなどにより、実務上で試験実施が困難になる条件が多く、試験自体が普及していない。そこで本研究では、衝撃強さ試験の普及を目的とし、包装試験現場で一般的に利用されている包装貨物落下試験機を用いた簡易試験方法を検討した。ここでは試験サンプル数を1台のみとし、実測した衝撃パルスから損傷境界曲線を導出する方法を考案することで、様々な衝撃パルス形状に対応した許容加速度を求めることができる設計とした。また、試験自体が簡易に運用できるよう、試験に必要な衝撃パルスの条件(最大加速度、速度変化)をスムーズに調整できる試験システムとした。 本試験方法を活用すれば、従来の JIS 法に比較して、容易に許容加速度が得られることが期待できる。 本試験方法が各社の適正包装設計の一助となれば幸いです。

■開催概要

日時：2023年2月24日(金)16:30~18:40

会場：「ホテルメトロポリタン仙台」4階 芙蓉の間 宮城県仙台市青葉区中央1丁目1-1(JR 仙台駅直結)

参加費：【会員】無料 / 【一般(会員外)】11,000円(消費税10%込)

定員：50名

■参加申し込み方法

・お申し込みは(公社)日本包装技術協会ホームページにアクセスし、参加申込ページよりご登録の手続きをお願いします。

参加申込者には追って参加証をお送りします。

参加申込ページ <https://www.jpi.or.jp/shibu/touhoku/gyouji/index.html>

【お問い合わせ先】

公益社団法人日本包装技術協会 東北支部(東京本部代行) 担当:竹内

TEL. 03(3543)1189 e-mail:takeuchi@jpi.or.jp